



協働によるまちづくり の進化と地域新電力

静岡県掛川市



自治体SDGsモデル事業の概要

【課題】

人口減少及び少子高齢化に起因する諸課題
 外国人住民増加への対応
 つながりの希薄化
 地域外への経済流出
 (エネルギー代金約450億円)

【資源】

脈々と受け継がれた「報徳の精神」と生涯学習都市宣言

- ・ 道徳と経済の調和
- ・ 分度 (適量・適度)
- ・ 推譲 (譲る心を持つこと) の考え方

≡ SDGs

	完成するための金額	市民募金の額
東海道新幹線掛川駅	130億2,000万円	29億1,000万円
掛川城天守閣	11億4,682万円	4億6,260万円
JR掛川駅木造駅舎	4億4,917万円	6,758万円

地域新電力

電力事業で収益を確保しつつ、収益をまちに再投資し、地域課題解決を図る「シュタットベルケ」を設置し、持続可能なまちづくりを行う。

経済

電力事業を核とする地域内経済循環の実施

- ・ 地域課題解決事業の実施 (利益を地域に還元する)
- ・ イノベーションの場づくり (地域のリソースをつなぐ)



環境

地域循環共生圏の実現

- ・ 市民協働発電 (再生可能エネルギー使用)
- ・ ごみ発電
- ・ 公共施設のRE100化
- ・ おむつのリサイクル



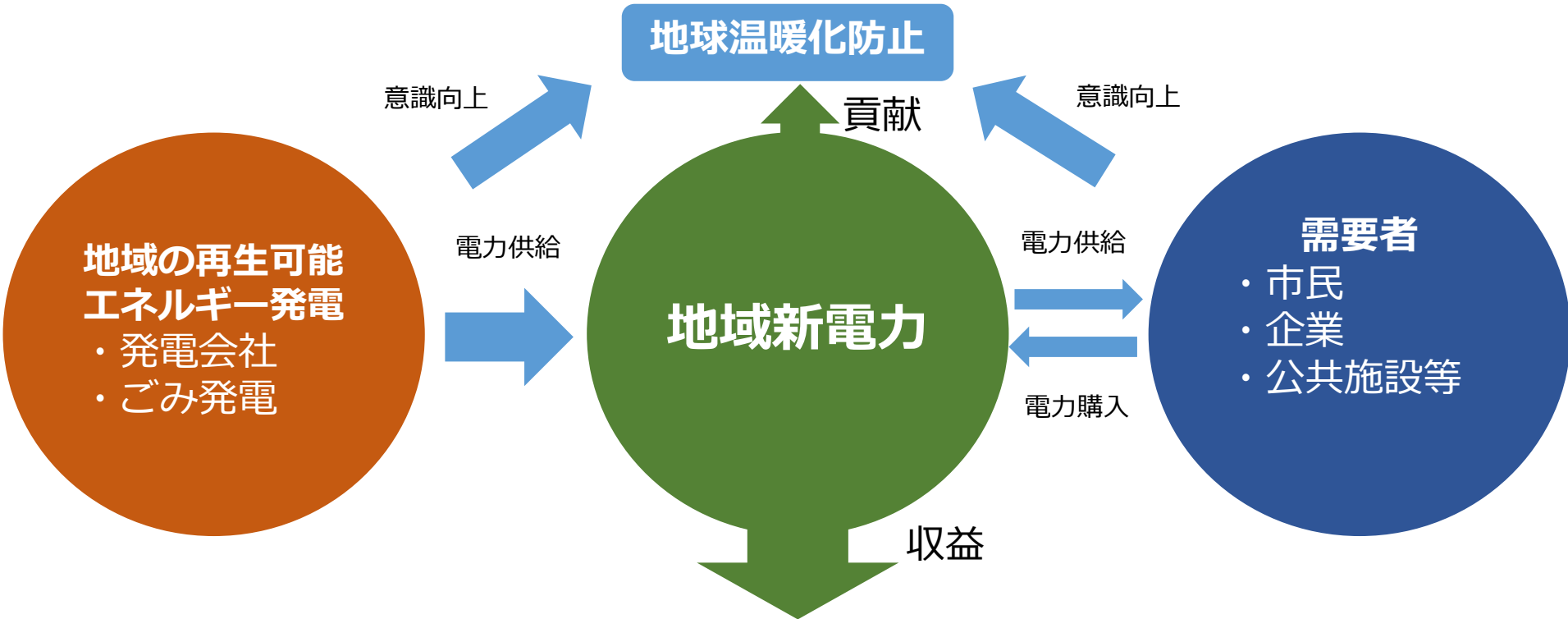
社会

報徳の精神や生涯学習都市宣言の理念に基づくまちづくり

- ・ 子育て世代や外国人等がまちづくりに参加しやすい仕組みづくり
- ・ 地域の高齢者の足の確保やゴミ出し等の課題解決



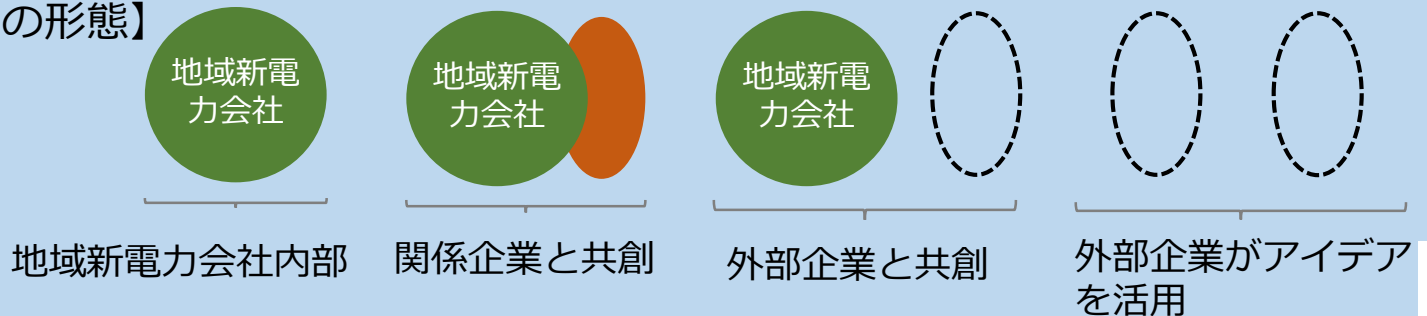
三側面をつなぐ統合的取組



地域課題解決事業（スマートシティ構築事業）

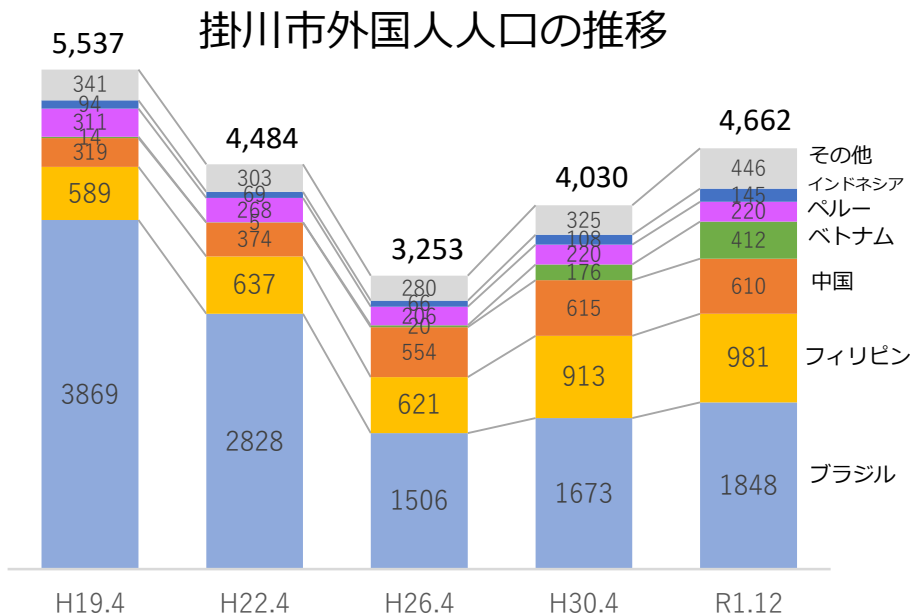
- ・地域の方々と課題の整理と課題解決を検討する場。
- ・行政や企業だけでは実現できない事業を実現し、課題解決を図る。

【検討の形態】



三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）

外国人等がまちづくりに参加しやすい仕組みづくり



■ 掛川市の外国人人口

- ・ 41カ国 4,662人 (R1.12.1)
- ・ 国籍別では、ブラジル、フィリピン、中国、ベトナムの順に多い。
- ・ 在留資格は永住者、定住者に次いで、技能実習が多い

- ◎ H26年度を境に増加傾向
- ◎ 近年の景気回復、人手不足を背景として、技能実習生・留学生が増加

■ 地域に馴染めない。地域から受け入れられにくい。

■ 外国人市民の暮らし方、働き方を現状把握
※外国人住民に関する実態調査

■ まちづくりに参画しやすい仕組みづくり
※地域課題解決事業へ

だれもがまちづくりに参画できる「協働によるまちづくり」へ

三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）

だれもが生活しやすい移動の最適化

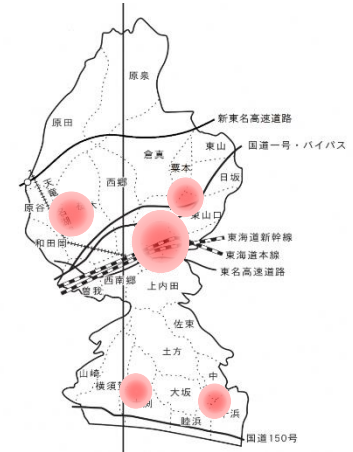
【課題】公共交通の維持が困難

運転手	高齢化しており、近い将来、運行を続けていけない状態。
公共交通	本数が少なく不便。高齢者の多くは免許を所持するも返納は不可能。
費用	公共交通を維持するために多額の赤字補填を行っている。
関係性	公共交通は利用者のみならず、担い手となる事業者や周辺自治体等の調整が必要。市民、行政、事業者がWin-Win-Winになることを求められる。

【ニーズ】公共交通のニーズ

- －通院、買い物、通勤・通学に対するニーズが高い。
- －健康・医療、商業等と密接な関係がある。

- 移動の現状及び需要の調査
※人流データ等、ビッグデータを活用した現状把握
- 必要な移動の最適化
※地域課題解決事業へ



「移動」＋「人」
⇒サービスのある目的地へ

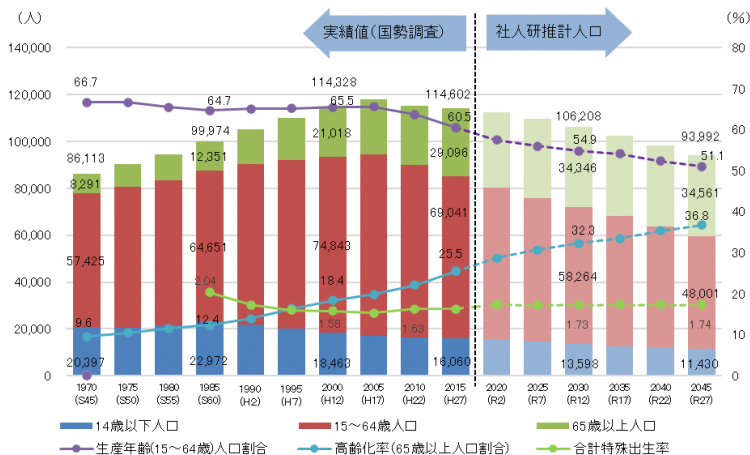
アップ
デート

「移動」×「健康」や「商業」等
⇒サービスを人へ

三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）

スマートシティの実現

掛川市の人口の推移

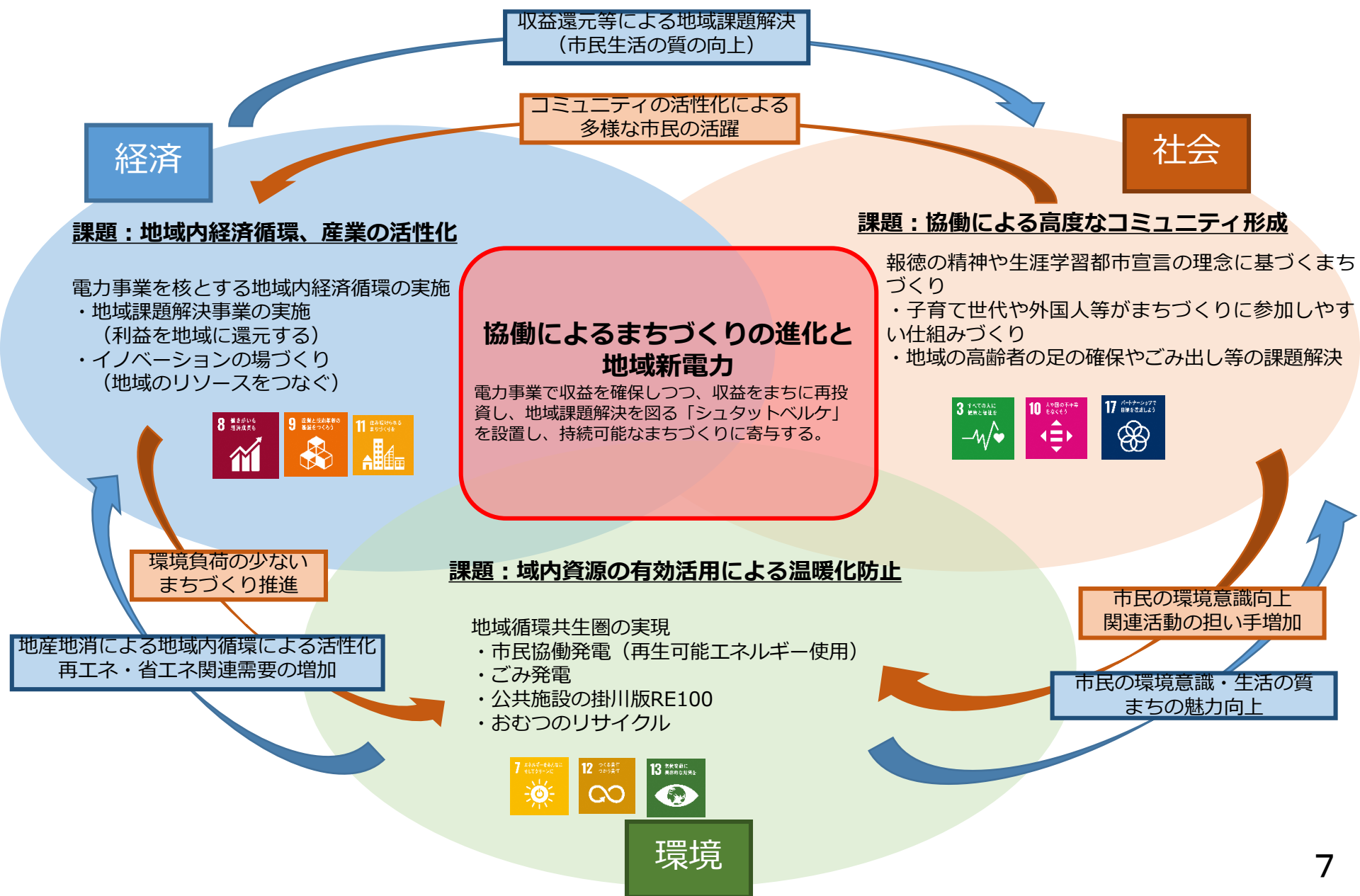


出典:1970～2015年は国勢調査。
2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計):出生中位・死亡中位推計」

- 【課題と方向性】 高齢化による課題**
- 2030年には30%以上が高齢者（長寿命化）
 - 高齢者の単身世帯も増加（コミュニティからの孤立）
⇒多世代での交流
 - ゴミ出し等の普段の生活が困難
⇒ICT等による解決
 - 高齢者増により、おむつの廃棄が増加
⇒おむつのリサイクル
 - 買い物、病院への足の確保が困難
⇒移動の最適化
 - 景観や治安の悪化、防災力の低下
⇒ICT等による高度な安全・安心の提供

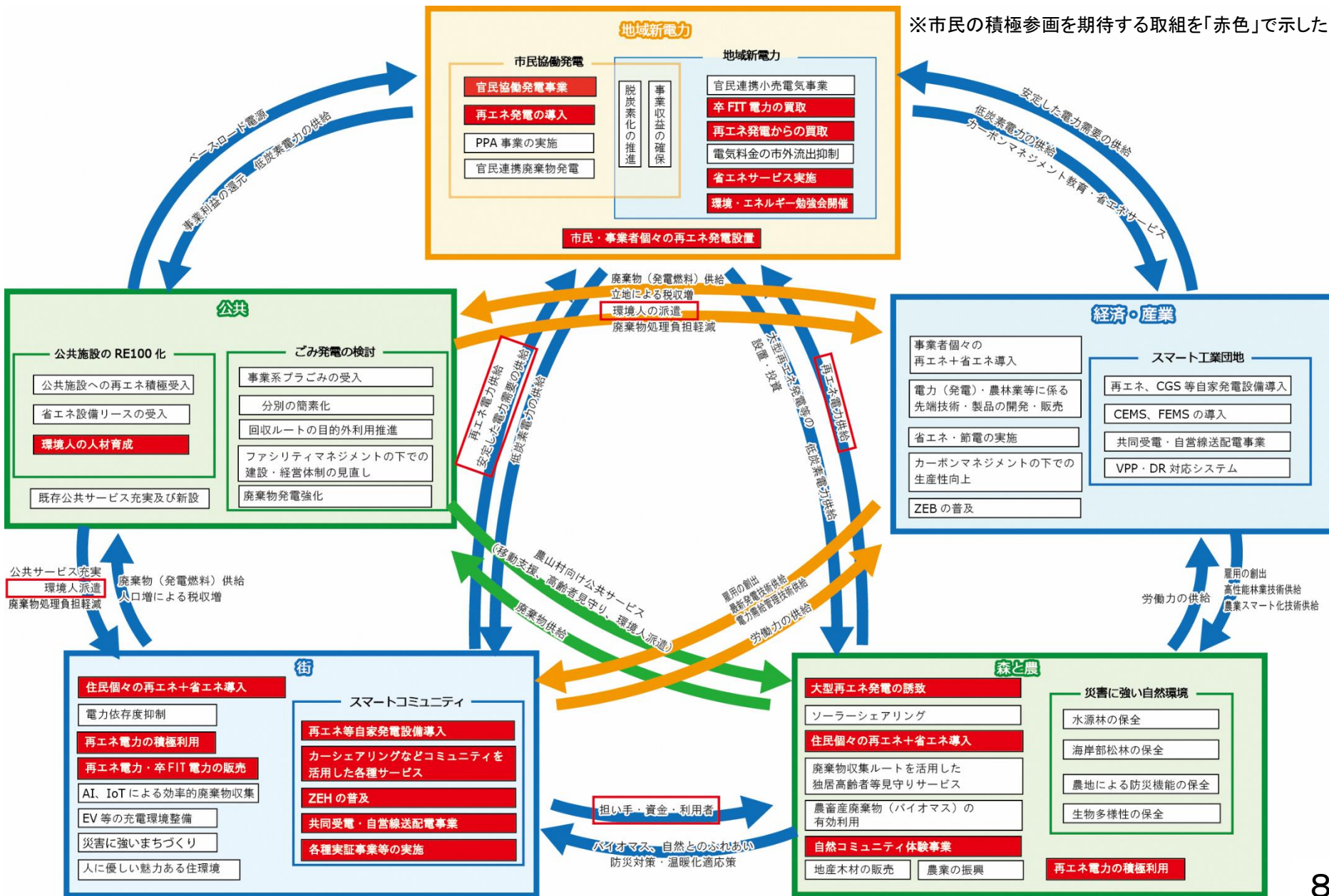
- 今後起こりうる課題の把握とスマートシティによる解決の方向性（生活、環境、経済活動、教育、交通、行政等の検討）
※現在把握できる情報から未来を想像し、解決すべき課題と解決の方向性を調査 with コロナを含む
- スマートシティ化による課題解決の検討
※地域課題解決事業へ

経済、社会、環境の各側面の相乗効果



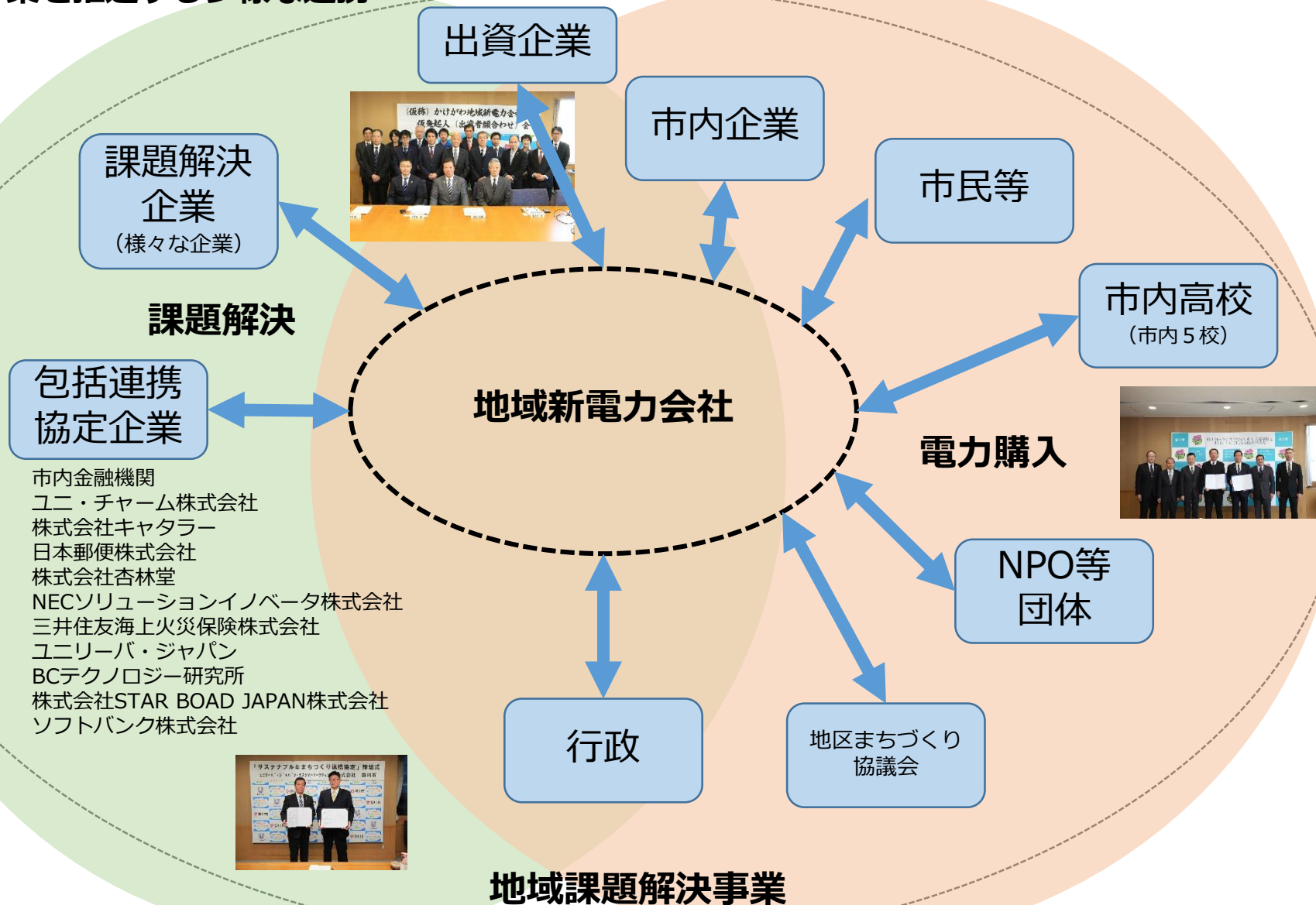
かけがわ地域循環共生圏

※市民の積極参画を期待する取組を「赤色」で示した。



自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

モデル事業を推進する多様な連携



- 地域新電力事業に取り組み、小売電気事業からの収益をまちに再投資します。
- スマートシティ化による課題解決を図り、まちをアップデートします。
- これにより、「協働によるまちづくり」を進化させコミュニティを強化していきます。
- そうすることで、持続可能なまちを目指します。